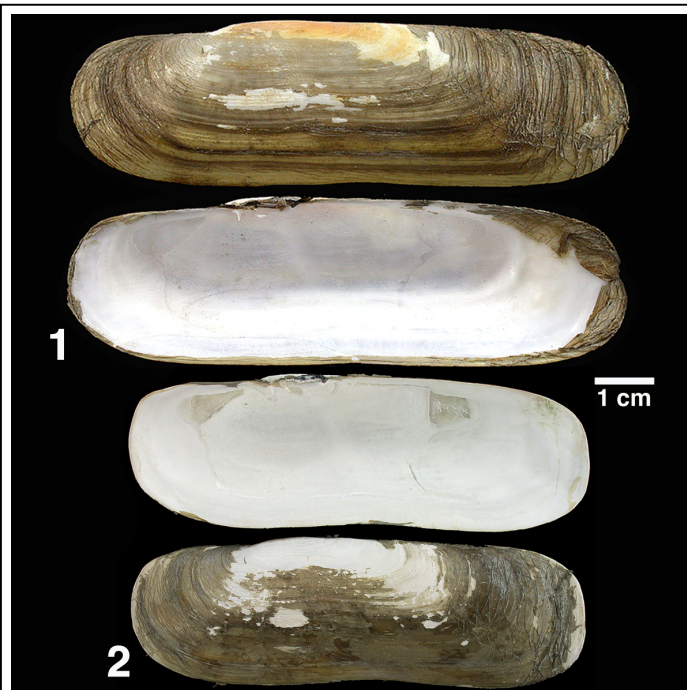


アゲマキ *Sinonovacula constricta* (Lamarck)

【選定理由】

本種は内湾奥の泥質干潟に生息する種で、かつて三河湾以南の閉鎖性の内湾に広く分布していた。しかし、現在では有明海・八代海でのみ生息が確認されている (和田・他, 1996 ; 山下, 2012)。有明海では食用種として多産していたが、近年資源量が減少している (水産資源保護協会, 1995 ; 山下, 2012)。県内では 1960 年代に衣浦湾 (知多湾奥)、汐川干潟などの内湾奥で生息が確認されていた (愛知県科学教育センター, 1967) が、衣浦湾の生息地は埋め立てられ、汐川干潟では三河大橋の建設と前後して絶滅した (原田一夫氏私信)。近年では汐川干潟 (木村, 未発表資料) や藤前干潟 (早瀬・他, 2014) で死殻が採集される程度で、絶滅と評価された。



1: 田原市汐川干潟, 1965 年 8 月 28 日, 河辺訓受採集,  
2: 名古屋市庄内川河口, 2013 年 4 月 18 日, 早瀬善正採集

【形態】

殻長約 10 cm、殻は前後に長い長方形で、殻はやや薄い。殻の前後端は丸みがあり両殻の間は開口している。生時の殻表は殻頂部を除いて灰褐色の殻皮で覆われる。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では絶滅した。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では、現在上述の通りの限られた水域にのみ分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮間帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減し、絶滅したと考えられる。

【特記事項】

水産資源保護協会 (1995) では危急にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
早瀬善正・川瀬基弘・木村昭一, 2014. 庄内川河口で確認された名古屋市新記録を含む滅危惧貝類 5 種. かきつばた, (39) : 31-36.  
山下博由, 2012. アゲマキ, p. 172. in : 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(II), 131pp.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)